

痴呆性老人と家族との問題を

みんなで考える

シンポジウムを開催

三月六日、総合会館で日光地区痴呆性老人問題シンポジウムが社会福祉協議会・市の主催、県・日光ロータリークラブなどの後援で開催されました。

これは、痴呆性老人・寝たきり老人などを抱えた家族の苦労を地域社会の問題として取り上げ、これらのお年寄りと家族が、より良い環境で生活をしていくためには、何ができるかを考える目的で開催されたものです。

あいさつに引き続き、市内の芝居好きの若者が平成元年に旗揚げした、劇団18王国(シユワッチランド)による演劇『花村家の春物語』が上演され、最近様子が違って来た母親



劇団18王国(シユワッチランド)による「花村家の春物語」

市民のひろば



講演をする吉永雅俊先生

「花村ヨシさん」を中心に花村家の人々と隣人、保健婦などとのふれあいを通じて、家族の苦労や物忘れがげしくなった母親にどう対応したらよいか、などの問題を劇を通して問いかけてました。

このあと、社会福祉法人緑海会の顧問で、福祉と医療を同時に満たす施設の実現に取り組んでいる吉永雅俊先生による『限りなき明日を共に生きる』と題した講演が行われました。講演の中で、福祉はたいへん幅の広い大きなもので、ゆりかごから墓場まですべてが福祉である。痴呆性老人も寝たきり老人もその中の一部である。真のボランティアなくして福祉は成り立たない。幼稚園、学校に通っている段階からボランティアを学ぶ必要がある。など力強く訴えかけました。

集まった三百五十人の方たちは、これから高齢社会を身近な問題として提起した演劇や講演に熱心に耳を傾けていました。



おいしいお菓子づくりに挑戦



上手に作るぞ!

お菓子作り・コーラス・バザー…… おおにぎわいの公民館まつり

三月十二、十三日の二日間、中央公民館で、公民館まつりが開かれました。公民館の講座から果立っていった十七のサークルで組織する公民館サークル連絡会が主催したもので、約千五百人の市民が詰め掛けました。

お菓子作りは募集と同時に定員になるなど人気を呼び、この日はアソビデットクッキーとピザリーづくり挑戦しました。その他、マジックショーや大型紙芝居「アンパンマン」、お母さんたちのコ

ーラスなど、二日間とも親子連れでいっぱいでした。会場入口では、ボランティアグループCBCや劇団18王国の皆さんが、やさそばやチョコバナナの模擬店を開き、子どもたちから人気を集めました。また、連絡会の皆さんが不用品を持ち寄った駐車場で、のバザーでは、またたく間に品物が売り切れるなど、大盛況でした。なお、それぞれの益金は、キスゲ作業所といちいの家へ寄付されました。



好評だった模擬店

市民相談フリーダイヤル 0120 (25) 2484